

会長方針

2010-11年 会長 貞弘 賢治

レイ・クリンギンスミスR I会長のテーマ「**地域を育み、大陸をつなぐ**」
原田光久2700地区ガバナーのテーマ 「**われもひと**」

R I会長および地区ガバナーのテーマを踏まえ、新例会場において気分一新、当クラブの独自性を念頭にクラブの「さらなる活性化」に向けた運営に努めてまいります。

第一に、展望のあるクラブに向けての活性化です。

設立後10年は、手作りクラブを基本に自立を目指してまいりました。その間「木を育てるより人を育てよう」の理念のもと、ボーイスカウト福岡第14団の設立支援とその後の活動助成、及び、青少年指導者育成のためのRYLA（ライラ）セミナーへの積極的な参加等に力を注いでまいりました。これらの事業は当クラブの重点事業として継続し、現在に至っております。

次の10年は、壮年会員を中心に地区大会のホストクラブ、IM担当、地区委員就任等2700地区の活動にも関わり世代交代を図ってまいりました。

30年に向けては、当クラブの独自性を発揮できる展望のあるクラブのあり方を協議していきたいと考えております。

第二に、会員増強による活性化です。

会員増強については、クラブの存亡にかかわる活力を維持するための重要な課題であると考えております。近年、日本全体、また、2700地区において平成8年をピークに会員の減少が続いております。会員数はピーク時に比べ、日本全体で約38,000人、2700地区で約800人減少しております。その状況のもと、当クラブは会員増強委員会を中心とした努力により、どうにか60名程度を維持してきました。しかし、会員増強の環境は厳しく、一委員会だけで実績をあげるには限界があり、当クラブの目標値である70名に向けて、全員の協力が必要と考えております。

第三に、親睦による活性化です。

当クラブは現在、夜間例会をはじめ、ゴルフ、野球等の同好会、それに加えテーブル会の定期的な開催により、親睦活動は充実しております。特に、テーブル会については、毎週の例会を補完する意味合いも大きく、親睦を深めるとともに「ロータリー情報の共有化」に大いに貢献していると思います。そこで、テーブル会のさらなる活用を推進していきたいと考えております。